



お役立ち情報

～鹿児島県農業で活用いただきたい新品種・新技術～

水田を活かす新品種・新技術

半履帯トラクタを活用した水田耕盤修復技術

大隅支場



野菜作付前排水対策
(弾丸暗渠耕, プラソイラ耕等)



鎮圧(ローラ)



湛水



代かき

半履帯トラクタを活用した耕盤修復の作業手順(水稲作付前)

技術ポイント

- ◆ 田畑輪換水田等で、野菜作前に弾丸暗渠等による排水対策を実施
- ◆ 水稲作付前に耕盤を修復
作業手順: 鎮圧→湛水→代かき
- ◆ 入水前に鎮圧を行うことで水の拡散が早くなり、代かきによる迅速な地下部の目詰を実施
- ◆ 半履帯トラクタを使うと車輪トラクタに比べ、修復後の耕盤の凹凸が減少し作業性が向上

収穫期分散で機械稼働率向上 早期米新品種「なつほのか」

園芸作物部



コシヒカリ なつほのか



ヒノヒカリ なつほのか

登熟温度30°Cでも白濁が少ない「なつほのか」

特性

- ◆ コシヒカリに比較し、収穫期が12日遅いため、労力分散が可能で、機械の稼働面積が拡大
- ◆ 高温登熟性に優れ、良食味

栽培のポイント

- ◇ いもち病抵抗性はコシヒカリ並み
- ◇ 早期落水しない

適応地域

- 早期栽培地帯

本県に適した飼料用稲品種

園芸作物部・畜産試験場



ミズホチカラ

飼料用米品種

- ◆ 早期栽培「べこあおば」
- ◆ 普通期栽培「ミズホチカラ」

特性

- 主食用品種より約1～6割多収
- 玄米は外観で主食用と識別可能



WCS用稲品種

- ◆ 「タチアオバ」「たちすずか」

特性

- ヒノヒカリより、倒伏しにくく、約3割多収(乾物)
- 脱粒しにくいですが、食用米への混入に注意

* WCS: 完熟前の籾と茎葉によるサイレージ



大規模畑作に対応する新技術

ダイコン

畦立・播種・施肥・施薬一工程技術

(キスジノミハムシ幼虫防除) 大隅支場

機械開発中



技術ポイント

- ◆ シードテープの種子位置を検知し、マルチに播種穴を穿孔
- ◆ 肥料、薬剤同時施用で、一連の作業は1h/10a程度で可能
- ◆ 深さ3~6cmにプリロツソ粒剤を同時施薬し、キスジノミハムシ幼虫による生育初期被害を軽減

キャベツ(年内~1月どり)

長期間機械移植が可能な育苗技術

大隅支場



40日苗の状態
左:慣行 右:水のみ

技術ポイント

- ◆ 播種後は施肥せず水のみで育苗
- ◆ 40日苗でも機械移植が可能(通常25日が移植適期)
- ◆ 「T532」, 「秋まき中早生」, 「夢ごろも」, 「夢舞台」などの品種で適用可
- ◆ 市販の育苗培土使用とセルトレイ育苗が前提

適応地域

○ 県内キャベツ産地

若ゴボウ(2~5月どり)

簡易被覆で低コストの生産技術

大隅支場

技術ポイント

- ◆ 被覆は10月~4月中旬まで不織布の直がけで保温
- ◆ 作型
9月中下旬播種 2~3月収穫
10月 上旬播種 4月収穫
12月 上旬播種 5月収穫



長さ50cmで収穫
軟らかく、香りが良いのが特徴

適応地域

○ 県本土平坦地

バレイショ

半自動移植機による植付と出芽促進技術

大隅支場



地温低下対策が重要



不織布による初期生育促進

技術ポイント

- ◆ 加工用バレイショ移植機の植付後は不織布被覆
- ◆ 無被覆に比べ2.5℃程度の地温上昇効果
- ◆ 初期生育が促進され、草丈が長く、節数が増加
- ◆ 規格いも収量が増収し、慣行芽出と同程度の収量

鹿児島島の土壌は石灰不足

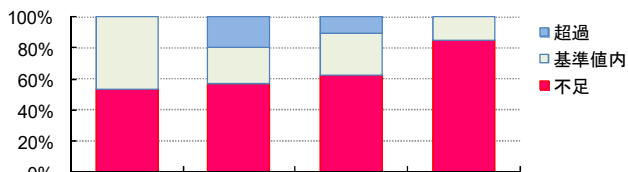
生産環境部

石灰正常

石灰不足

技術ポイント

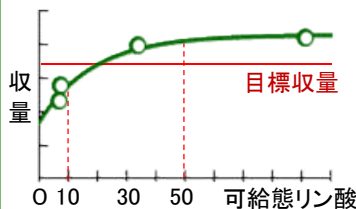
- ◆ 石灰不足は土壌酸性化を招く
- ◆ 多くのほ場で基準値以下
- ◆ 定期的な石灰補給が重要



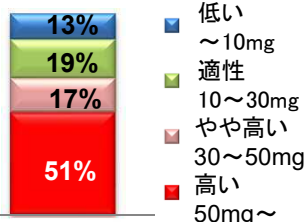
地目別石灰の過不足割合

土壌診断でリン酸肥料の適正施肥

生産環境部



土壌中のリン酸の状況(野菜畑)



技術ポイント

- ◆ 野菜畑では、土壌のリン酸が増加
- ◆ 目標収量確保のため、土壌のリン酸レベルに応じたリン酸施肥基準を作成(下表)

可給態リン酸 (mg/100g)	リン酸施肥基準
~10	→ まず土づくりから
10~30	→ 標準施肥
30~50	→ 半量施肥
50~	→ 無リン酸

【お問い合わせ先】 農業開発総合センター企画調整部(TEL099-245-1119)
最寄りの支庁・地域振興局の普及担当課(農政普及課など)